



~ 13
3248
3



13
3248
3



昭和十一年
一月二十三日
購求

浮世親仁形氣

付り字のも智色流のふか

揚をれ道破



三之巻目録

第一 頭を樂しむ子自傳の叙文

人の子は是國を小

胸を燃も鉄橋れ曲

中をれれ魚

の

あ

第二 形似と樂心仙人親交

形似と樂心仙人親交

ひんがし

形似と樂心仙人親交

ひんがし

形似と樂心仙人親交

ひんがし

第三 酒を樂心仙人親交

酒を樂心仙人親交

ひんがし

酒を樂心仙人親交

ひんがし

酒を樂心仙人親交

ひんがし

一 踊と樂心子自傳の親交

踊と樂心子自傳の親交

踊と樂心子自傳の親交

踊と樂心子自傳の親交

踊と樂心子自傳の親交

踊と樂心子自傳の親交

踊と樂心子自傳の親交

踊と樂心子自傳の親交

踊と樂心子自傳の親交

踊と樂心子自傳の親交

踊と樂心子自傳の親交

踊と樂心子自傳の親交

踊と樂心子自傳の親交



二 蘇州と夢い仙人親父

揚泉の湯かみ代のわさ万景の湯治をづる人の
何れも妻の向よりの肉を奥より取りて。妻の湯をさ
帯のわりの袖を奥より結ぶは牙をおもをられして。
十名を盤におもしてねど。法をめて肉をふんけあ
蘇のものを取りてもてはならば車にせちめがこく。
始末は一あてるの妻はうくはなか福といふ。
大酒をねまじを遊びよ法をつらいど。男の袖の
袖入羽織らの世年は淫せど襟垢つけどそど
うともも知はあて編笠も破れを内をる紙
のまおもしけづら。妻夏うをとづまて原をの
何もわさにまいまる事にわはせも又より
忘れたのまう。始末は一あてるの妻はうくはなか福といふ。
ももたりて費をしてはならば紙も二枚かといふ。
紙香紙一
紙

紙香紙一
紙

さらばおけいさつんのもうね男が中つけ。い
 といのまをひきてしけるはねのい通て伝術
 をまひんおがけしるはげありまうね
 自身より万乗にまるといれむと何とそ
 おひり真術と知りぬりん万のふもを
 されば別る所色ははにけむいゆであて。昔
 とはなを伝ふしてまひりてきく海に
 出谷ふか入てそれの所通とぬ又い秘書と
 ひてまうねまひりて。他人よりまうね中。自中まも
 多く見たり。彼のいま久米れ他人が流心の表
 横に所抜に現れぬ母方の伯父がけの三井右
 小まひりまひりてしり何か。秘録を家
 秘録といふ也。初若海坊海三のむひり判るな
 の悪性也。并まうねの房極といの伝。浮若らうが
 の中。後丁の房よぬてぬ。徳坂の長記が方
 へ上米けりし。昔物流ゆふわす。まづく只を
 とめてはる間が。我まひりまひりて。ま
 のま伯父のあつてあといと伝。その所を
 お考へ。他人のいふまはる。海三の方へ来て
 つらば。今入の親米他人の所と伝。あまひり
 向んまてんらぬおま中。考海坊が傳れ
 ゆり秘録まひりて。只今入の事を切てまひりて
 てあまひりし。まひりてあまひりて。世考でも
 持し所分。大鳴白の信伝をがまてまひりて。り。
 世考なりと傳ふ。付。海三を考てまひりて。は
 つらば。物考とて。伝術の秘傳とまひりて。考を
 のまひりて。今入の伯父が考てまひりて。は
 秘録の由りてまひりて。我まひりてまひりて。

さらばおけいさつんのもうね男が中つけ。い
 といのまをひきてしけるはねのい通て伝術
 をまひんおがけしるはげありまうね
 自身より万乗にまるといれむと何とそ
 おひり真術と知りぬりん万のふもを
 されば別る所色ははにけむいゆであて。昔
 とはなを伝ふしてまひりてきく海に
 出谷ふか入てそれの所通とぬ又い秘書と
 ひてまうねまひりて。他人よりまうね中。自中まも
 多く見たり。彼のいま久米れ他人が流心の表
 横に所抜に現れぬ母方の伯父がけの三井右
 小まひりまひりてしり何か。秘録を家
 秘録といふ也。初若海坊海三のむひり判るな
 の悪性也。并まうねの房極といの伝。浮若らうが
 の中。後丁の房よぬてぬ。徳坂の長記が方
 へ上米けりし。昔物流ゆふわす。まづく只を
 とめてはる間が。我まひりまひりて。ま
 のま伯父のあつてあといと伝。その所を
 お考へ。他人のいふまはる。海三の方へ来て
 つらば。今入の親米他人の所と伝。あまひり
 向んまてんらぬおま中。考海坊が傳れ
 ゆり秘録まひりて。只今入の事を切てまひりて
 てあまひりし。まひりてあまひりて。世考でも
 持し所分。大鳴白の信伝をがまてまひりて。り。
 世考なりと傳ふ。付。海三を考てまひりて。は
 つらば。物考とて。伝術の秘傳とまひりて。考を
 のまひりて。今入の伯父が考てまひりて。は
 秘録の由りてまひりて。我まひりてまひりて。

くまばりやとやされねてこそは世と。心も
ふる神もせい。え徳悦し。後よ。そま門は書あり
さはちかび。我久く。仙術の秘ひ。ちけき。念
秘ひ。せけ。は。海。い。い。神。出。せ。り。か。る。太。切
の秘去と。さ。秘。え。や。と。さ。子。邪。の。を。そ。い。わ。る
か。秘。人。の。を。い。や。ぶ。下。さ。と。い。て。あ。り。て。ま。れ。く。而
あ。と。あ。げ。お。か。く。後。け。き。ぐ。ひ。け。け。り。を。秘。え
の日。倍。み。あ。り。あ。り。あ。り。と。ま。き。一。老。と。後。せ
は。え。徳。を。と。る。の。け。け。か。秘。え。と。い。て。人。身。果
の。ま。さ。秘。え。ま。れ。自。生。の。術。あ。り。て。う。の。載。て。あ。こ
それ。り。俄。よ。初。之。と。吾。先。師。ま。事。秘。を。秘。え
秘。え。の。ま。事。い。あ。り。て。秘。秘。と。の。つ。つ。の。じ。あ。り
を。秘。と。申。い。人。の。つ。ま。ひ。と。あ。り。て。我。密。あ。り
秘。本。ま。け。も。つ。奥。を。あ。ま。れ。こ。り。あ。り。秘。秘。と
秘。へ。と。て。二。年。あ。り。氣。秘。は。秘。大。ま。ま。秘。林
の。秘。ま。も。い。わ。ね。只。忙。忙。と。て。後。の。じ。は。い
じ。秘。つ。ま。雀。も。見。秘。秘。の。鳥。も。ら。つ。も。秘。夕
の。秘。と。い。わ。ね。い。ま。り。す。い。い。ま。る。秘。い。秘。家。と
ま。い。あ。り。ね。法。を。我。と。あ。それ。ね。り。ま。た。め。ま。り
い。い。と。ま。び。て。是。見。せ。し。秘。秘。代。を。秘。秘。と。り。二。門
一。秘。秘。い。か。考。ら。つ。ま。秘。秘。目。秘。ま。る。を。秘。と。り。上
昔。ふ。あ。り。あ。る。れ。い。わ。れ。は。い。ま。氣。と。あ。り。その
い。い。あ。り。ね。され。ば。夜。ま。の。言。ふ。も。希。い。者。律。乃
く。人。と。し。二。月。の。秘。ま。れ。は。い。わ。ね。る。と。ま。し。と。秘。秘
小。の。り。秘。秘。と。あ。り。い。余。を。秘。秘。指。乃。花
冊。を。秘。秘。と。あ。り。と。又。秘。秘。ハ。集。に。秘。と。得。て
六月。ふ。冬。の。調。子。と。い。て。あ。り。あ。り。秘。秘。と。あ。り
秘。つ。り。秘。秘。秘。秘。の。を。い。い。と。て。あ。り。あ。り。と。あ。り。あ。



くまばりやとやされねてこそは世と。心も
ふる神もせい。え徳悦し。後よ。そま門は書あり
さはちかび。我久く。仙術の秘ひ。ちけき。念
秘ひ。せけ。は。海。い。い。神。出。せ。り。か。る。太。切
の秘去と。さ。秘。え。や。と。さ。子。邪。の。を。そ。い。わ。る
か。秘。人。の。を。い。や。ぶ。下。さ。と。い。て。あ。り。て。ま。れ。く。而
あ。と。あ。げ。お。か。く。後。け。き。ぐ。ひ。け。け。り。を。秘。え
の日。倍。み。あ。り。あ。り。あ。り。と。ま。き。一。老。と。後。せ
は。え。徳。を。と。る。の。け。け。か。秘。え。と。い。て。人。身。果
の。ま。さ。秘。え。ま。れ。自。生。の。術。あ。り。て。う。の。載。て。あ。こ
それ。り。俄。よ。初。之。と。吾。先。師。ま。事。秘。を。秘。え
秘。え。の。ま。事。い。あ。り。て。秘。秘。と。の。つ。つ。の。じ。あ。り
を。秘。と。申。い。人。の。つ。ま。ひ。と。あ。り。て。我。密。あ。り
秘。本。ま。け。も。つ。奥。を。あ。ま。れ。こ。り。あ。り。秘。秘。と
秘。へ。と。て。二。年。あ。り。氣。秘。は。秘。大。ま。ま。秘。林
の。秘。ま。も。い。わ。ね。只。忙。忙。と。て。後。の。じ。は。い
じ。秘。つ。ま。雀。も。見。秘。秘。の。鳥。も。ら。つ。も。秘。夕
の。秘。と。い。わ。ね。い。ま。り。す。い。い。ま。る。秘。い。秘。家。と
ま。い。あ。り。ね。法。を。我。と。あ。それ。ね。り。ま。た。め。ま。り
い。い。と。ま。び。て。是。見。せ。し。秘。秘。代。を。秘。秘。と。り。二。門
一。秘。秘。い。か。考。ら。つ。ま。秘。秘。目。秘。ま。る。を。秘。と。り。上
昔。ふ。あ。り。あ。る。れ。い。わ。れ。は。い。ま。氣。と。あ。り。その
い。い。あ。り。ね。され。ば。夜。ま。の。言。ふ。も。希。い。者。律。乃
く。人。と。し。二。月。の。秘。ま。れ。は。い。わ。ね。る。と。ま。し。と。秘。秘
小。の。り。秘。秘。と。あ。り。い。余。を。秘。秘。指。乃。花
冊。を。秘。秘。と。あ。り。と。又。秘。秘。ハ。集。に。秘。と。得。て
六月。ふ。冬。の。調。子。と。い。て。あ。り。あ。り。秘。秘。と。あ。り
秘。つ。り。秘。秘。秘。秘。の。を。い。い。と。て。あ。り。あ。り。と。あ。り。あ。

此の葉は月よりありて、湯の毒の一具あるまじく
 三陽のち移つて、世に傳へて七十の女ありて
 是を中いひて、その湯を移へたるを
 信者の方いひて、親念の服と云ふ。二代の女
 は、阿公をいひ、おはす。その花は、どよとの
 ので、中のいひて、その湯を移へたるを
 例が生考す。何より、熱く、おはす。花は、腰
 骨と打つ。その湯を移へたるを、おはす。花は、
 くる。おはす。阿公の考、おはす。花は、
 花は、おはす。その湯を移へたるを、おはす。花は、
 医者よ、おはす。その湯を移へたるを、おはす。花は、
 おはす。阿公の考、おはす。花は、
 おはす。阿公の考、おはす。花は、

春のたけしげ中、湯中にいひ、おはす。それ
 より、おはす。その湯を移へたるを、おはす。花は、
 の。おはす。その湯を移へたるを、おはす。花は、
 この。おはす。その湯を移へたるを、おはす。花は、
 と。おはす。その湯を移へたるを、おはす。花は、
 おはす。その湯を移へたるを、おはす。花は、

三 酒を樂し、賢人教ふ

何事も、其人よりして、風俗のわたりたるを、
 わり。連方師の、おはす。その湯を移へたるを、
 おはす。その湯を移へたるを、おはす。花は、
 おはす。その湯を移へたるを、おはす。花は、
 おはす。その湯を移へたるを、おはす。花は、
 おはす。その湯を移へたるを、おはす。花は、
 おはす。その湯を移へたるを、おはす。花は、



舟の
五葉

舟の
五葉

舟の
五葉

舟の
五葉

舟の
五葉

舟の
五葉

あふるとひらちるはつを渡さるはと
しつ茶にまをせてしけとばあ様つせとてん
七段人をさきさうへつ戸していつわぬよと先
保命海の家さより春初師道外に流牙にた
わづらばいし海の家にぬか好く中挽ぐ糸
碗と如し下地これより戸よりつら春節とさより
あづらも海の家つては情がつまるといひ物とつて
の川老も毛纏あつてを海と家のむらり
川あはせの帽子けつる卵らわぬをめて借
難子の借者師つた旅の夫長とありすが作を
の大社とさるよはいてのまけつりけちをせん
四段でやぐらあふとさも旅の色入白はらあひ
たてりてあれたと振てあちま柳とさうあらば
ほきせん海海のいなる花とらと又おし流より

小田原の幕とちやと色いろも大原がとあふと
とんへる奴がま中は旅ゆんでめつたの町所
まのりもあふ先た思てて作柳やの四季延
命はとちれた夏い苗蒲林い菊た冬とをれ
はとあふ春とつてあつらひ人もあびよあはる
おは付てさるの根つしてはあふと新所の楊
屋中よりまは社とさささるとつてつる。後投いふ
りの無記もたがふとて今この本年の内よの極
まう地づくははとさささるはあはつとつて
してたとちねよもはつらつてつれつるあふ
あつらひつるそのは合とつてあつらつて
あつらひつるあつらつて今秋の感あつたあ
ほ海のおあつらつたあつらつて今秋の感あつたあ
ほよつたあつらつたあつらつて今秋の感あつたあ

東もさけはまきほせつん知也。外格も大
飛のふし月のほしりの格も今ありと
傳への格ひがほしとよまふねは風象せ乃
るまむとへもめてとらんままをくま月のめた
びのさ師とのほねのすももたはほてありと
さくまほねなる田やれ格もほくせと知とて
い勇とらうとれ。今との格り美人のむねとい
ひとよまらひのほしとせ方ひ今ほかか
りふもやるま業難とよかふあらに格も全
まのわかると七美人とよまはし中をほりれ
子ゆか部とねがめなまの格もくれば
たかんとけふらげれ方甲格へありとせら
は下の選とやうのられ格も母の格師が
わつととまはつといふもこれねらふれ
あふたり格今の格も。今よき格は作て我人
もといつゝ格いとれと格と行てめく腹か守
下のまも利格も。人ら格もたげぬあり。
拙者いふ格もつとれた。めりむけは中
とのぐねと今よりさひ切るる名はびとせと
傳よとらうとせとよひつうとわれは富田をら
格のたふまき。我もももせうにふ素まの先
こぶらとたぐひは中作ゆであらるる格とたれ
あはれいひ今を儀よとわひのさひと面との格
もを肝とけずて美人の子たれおもぬと
わくあつと格もをんもそでい氣がひとさひの
傳かんとたびにめはとらう格もいふの格も
そといひもわくととらふも格もあ房に
はの状ほく格も親里へゆめをくたせやと

柳田氏



